

大学の世界展開力強化事業（平成24年度選定）事後評価結果

大 学 名	慶應義塾大学
整理番号	I-8
事 業 名	アジアの新出課題解決に向けたエビデンスベースドアプローチ大学コンソーシアム

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価) <b style="font-size: 2em;">A	取組状況、目標の達成状況ともに事業計画を概ね満たしており、事業目的は実現された。
(コメント)	<p> 本事業は、「環境・エネルギー」、「健康・公衆衛生」、「防災・セキュリティ」というアジア共通の課題において、多様な現場からビッグデータを収集し、エビデンスに基づく問題の発見と分析、解決力について、グローバルな実践力を育成する取組として実施された事業である。 </p> <p> 事業展開では、講義型授業科目に ICT 技術を取り入れインターネット上で共有する等の特色ある手法が用いられており、相手大学からの評価も高い。特に、学生がフィールドワークを通して多くのデータを共同で収集し、地方自治体や民間企業との連携を取りながら課題の発見や分析、解決策の検討を様々な視点から行い共に学び合う機会を提供した点は高く評価できる。更に、オンライン教育を駆使して単位互換が可能な体制を構築し、多くの学生がオンライン科目を履修した実績は、現代ニーズを意識したものとして評価できる。 </p> <p> また、これまでの実績を活かして、派遣・受入学生が自由かつ効果的に学ぶ様々な環境が整備されている。学生交流数については、事業前半は計画よりも大幅に少ない状況が続いたが、後半からは計画を上回る実績を挙げており、事業展開への努力が認められる。 </p> <p> 一方で、単位取得を伴う交流実績は短期フィールドワークのみである。当初計画にあった単位取得を伴う長期交流の派遣・受入はほぼ実現に至らず、その代わりに単位取得を伴わない短期交流の受入がなされたが、プログラム全体が計画に比べ未成熟であることから、単位互換に関する大学間の実質的な連携を早急に明確にするとともに、3か月以上の派遣学生数の増加と長期インターンシップも含めた学位取得を目的とする取組の実施が望まれる。 </p> <p> 最後に、既に高く評価されているオンライン教育科目と学生交流を連動させた取組や EBA (Evidence Based Approach) による学習法の特色を更に発展・普及させることによって、先駆的な大学間交流事業のモデルとして、我が国の更なる発展に資する事業として継続されることを期待する。 </p>